



1 歯ブラシなどのアメニティの包装はすべて紙。シャンプーも小分けにされたものではなく、ボディソープとしても使えるボトルが一つ。使い捨てが当たり前のように思われているビジネスホテルにおいて、小さな挑戦が随所にある。2 採光を増やすために窓を大きく設定しており、日中には照明をつける必要がない。3 ベッドボルトにプラスチックごみを詰めて、レンガのように使うECOBRIKもエントランス前で集めている。フィリピンなどでは実際に小屋を建てるために使われているもの。ごみを減らし、再利用するプロジェクト。

## 02 Olive Tree Hotel

オーガナイザーを務める女性も31歳。一度社会に出て、そこで気づいた矛盾点を自分たちの力で解消すべく立ち上がった姿が眩しく見えた。

ただし、マーケットのスタートは、この場所を持つオーナーからの提案だったという。先進的な意識を持ち、社会に影響力のある人々が、若者たちをサポートする形でベナンのグリーン活動は始まっている。経済性と環境に対する活動を両立させることで、持続可能なビジネスは成立する。2015年にオープンした「ヘオリブツリーホテル」は、まさにそのモデルと言えるホテルだ。

一見すると少し気の利いたビジネスホテル、という印象だが、細部に彼らの熱い意志が見える。客室のアメニティの包装はプラスチックではなく、すべて紙製。さらにベッドボルトではなく、ウォーターサーバーとグラス。コンベンションセンターの目の前という立地から、新聞は必須のはずだが、ビニール袋に入れた各部屋への配達を行わず、アプリでダウンロードして読むスタイルを貫いている。すべての客室には採光のために大きな窓があり、日中に照明をつける必要はない。ベナン州では初めてとなる全館LED照明。

その窓の大きさや壁紙の種類など、細かい指標が設定されたグリーン・ビルディング・インデックスという認証を取得したホテル。廃材を利用した、教育的オブジェまで飾られている。実際に客室に捨てられていたプラスチックごみが海を汚すことを伝えるような展示は、先日までエントランスを入ってすぐの場所に置かれていたという。経済性だけを考えれば、使い捨て「プラスチックのほう」がずっと安い。ごみ箱の生分解プラスチックバッグの値段は、通常のもののおよそ3倍。それでも経済性と環境意識を同居させ、ベナン州をリードするホテルであろうとする情熱が見えた。